

## こころの玉手箱

公明党代表  
太田 昭宏

5

日本の教育をどう立て直していくのか。今の政治、社会の大きな問題だ。いじめ、不登校、学力低下、大改革……。最近の論議のもとをたどると、二〇〇〇年三月に行き当たる。

この月、当時の小淵恵三

総理が教育問題に取り組もうと教育改革国民会議を発足させた。ノーベル賞の受賞者である江崎玲於奈さんを座長に、学界や文化・芸術、経済界などの有識者二十六人が集まった。

小淵総理はあえて政治家の参加を呼び掛けた。与党の代表として自民党の町村信孝さんと私が加わること

になった。

会議発足の直前、私たちは総理官邸に呼ばれた。小淵総理は「教育は百人集まれば百通りの教育論がある。無理にまとめようとすると平板になる」と切り出した。

なぜ政治家を入れるのか。「ぜひとも皆の話を聞いてもらいたい。これは大事だと思ったら、すぐ拾い上げ、法律にしたり、実行に移したり、そういうことをやってくれ」。重大な役割を仰せつかった。

小淵総理は執務室の隅から一冊の本を出してきた。「久しぶりに読んだが、いいことをいっている」。戦後まもなくにベストセラーになった岩波新書の『自由



岩波新書の「自由と規律」

一九四九年に発刊され、ベストセラーになった

## 小淵氏の言葉を胸に教育改革

と規律」だった。

故池田潔慶応大教授が英国のパブリックスクールでの自身の経験に基づき、生徒の個性を大事にしつつ、社会に奉仕する心を養う英国の伝統を紹介した本で、学生時代に私も読んでいた。

「あちこち飛び回っているようだが、体を大事にしてください」。別れ際にその声を掛けてくれた小淵総理は一週間後、脳梗塞で突然倒れられた。最後の会話が私には遺言のように感じられた。

教育改革国民会議は森内閣へ引き継がれ、その年の十二月に答申を出した。十七の提言は順次、実行に移され、残っていた教育基本法改正も昨年、実現した。

私は憲法や教育の問題に長く携わってきた。教育を考えるとき、いつも小淵総理の真摯な人柄を思い出す。

次週はコンピューター科学者の坂村健氏です。